



探究ニュース Access No. 9

発行日 令和2年12月

I 全日本高校模擬国連全国大会に選抜参加

第14回全日本高校模擬国連大会が11月14-15日に行われました。

本大会は219の参加チームの中から、厳しい書類選考を通過した上位54チームだけが進出できるものであり、本校からは2学年の大宮慶也君と山田隼輝君のチームが本選への出場を果たしました。

本選では「宇宙開発」をテーマに、各チームが与えられた担当国の大使として、自国の国益を求めて他国との議論・交渉、スピーチ等を行いました。

参加者インタビュー

－なぜ模擬国連に参加したのか（大宮）－

英語を使った外部活動に取り組んでみたいと思い、探究部の先生に相談したことがきっかけでした。先生から模擬国連を紹介され、せっかくだからやってみようと思い、参加を決意しました。

－全国大会に出場するまで（大宮）－

最初に取り組んだのが書類選考課題でした。全国大会に出場するには難関の書類選考を通過しなければならないことを知り、絶対に選考委員に選んでもらえるような答案を作ろうと決意した私は、短い夏休みのほとんどを書類選考課題に充てました。今年の課題は、地球温暖化や安全保障に関する設問がメインで、それらのテーマに詳しい先生方に納得のいくまで質問しました。応募してから1か月後に書類選考通過の知らせを受け、ほっとしたのを覚えています。本番までの1か月間は、本番テーマの「宇宙開発」について担当国のイランの立場からリサーチを行い、政策を立案しました。ちなみに、担当する国は自分たちの希望をもとに決定されます。イランの宇宙利用に関する資料があまり見つからず、苦労しましたが、先生方の助言を受けながら、何とか本番までに準備を終えました。

－全国大会の様子（大宮）－

一言で表現すると、呆然としました。全国大会だけあって、大変レベルの高い議論が繰り広げられ、そのレベルの差を痛感しました。私たちも自分たちの立案した政策をアピールすることに全力を傾けましたが、それでも力の差は埋まりませんでした。自分たちの未熟さを突き付けられ、いい経験になったと感じています。

－模擬国連を終えて（山田）－

私は英語が得意というだけで、国際社会や政治に関する知識があまりなく、本当にゼロからのスタートでした。しかし、様々なことを調べながら書類選考課題を仕上げていく過程で知識が広がり、視野も広がりました。本番は周りの人達のレベルの高さに驚き、私は話題に付いていくのがやっとでした。しかし、文系や理系という枠にとらわれない深い学びができたのはとても良い経験でした。

－在校生へのメッセージ－

模擬国連の説明を見て、自分には無理だと感じた方も多いと思います。実際、数か月前まで私もそうでした。しかし、ぜひ多くの方に模擬国連を体験して頂きたいと考えています。模擬国連は、一度に英語力や交渉力、思考力など様々な力が身に付きます。これを読んで少しでも模擬国連に興味を持って下さった方がいらっしゃったら、ぜひとも探究部の先生を通じて連絡してください。模擬国連について、ここでは書ききれなかったことについても、お伝えしたいと思います。

Ⅱ 探究基礎(1年)・課題探究(2年) 中間発表

2学期に入ってから、1年生は、9つのプロジェクトに分かれて課題解決プロジェクトに取り組んでいます(詳細はNO.8参照)。3月の成果発表に向けて中間発表を行いました。生徒同士だけではなく、大学研究者や企業からプロならではの指摘を受け、改善すべき課題が明らかになりました。

2年生は16のゼミに分かれて行ってきた個人研究の仕上げ段階。中間発表で調査結果の処理や分析の適切さや論理展開について相互点検しました。ここでは発表する側のプレゼンテーション力だけではなく、質問する側の質問力も問われます。これまでの探究の成果は生徒自らが出す「問い」のレベルアップに現れていました。

3月の成果発表会では…

令和3年3月13日(土)は、1年生B探究・2年生C探究の成果発表会です。各クラスの探究係やプロジェクトリーダー、ゼミ長が中心になって運営を行います。感染症対策で例年とは異なる工夫が必要になります。アイデアを出し合いながら新しい形を模索していきましょう。



Ⅲ 京都大学連携 多摩川プロジェクト フィールドワーク



八王子東では2019年より3年間、京都大学及び全国の高校と連携して森・里・海の共同研究をしています。3月13日に行われるオンライン発表に向けてフィールドワークを行いました。なお、発表会はオンラインですので本校の成果発表会でもコラボ実施を予定しています。

Ⅳ. 2年生 課題探究 ゼミ紹介①

2年生の課題探究では、自分の研究分野に応じてゼミ活動をしています。今回は、その中の「現代文化ゼミ」での活動を紹介します。

「言葉を再定義する」

現代文化ゼミでは、アニメ・漫画・映画・ゲーム・eスポーツ・You Tubeなどについて探究しています。ところで、「文化」とはなんだと思いますか？「異文化」「日本の文化」「文化祭」「伝統文化」…様々な文脈で文化ということばは使われます。例えば、最近ある芸人さんが「大きな古時計」や「夕焼け小焼け」を面白くアレンジをして人気となっていますが、これらの曲は小学校で習ったり、夕方になると流れたりするという文化で育った我々にとっては、みんなが知っている曲です。よって、これらの童謡を歌う文化があり、みんなが原曲を知っているためアレンジをネタとして楽しめるという側面があります。

では、「文化」とはみんなに共有されているものだから楽しめる、ということでしょうか？しかし「鬼滅の刃」は“Demon Slayer”というタイトルで海外でも人気ですが、日本の平安時代や大正時代、ひいては「鬼」についてちゃんと理解している方ばかりとは思えませんよね。となると「共有」は大事ではないのか？など、文化ということばの定義について、ゼミのメンバーで議論してみました。

ゼミのメンバーの考える「文化」の定義

- * 数世代以上にわたって長く各地域で共有され、受け継がれてきたやり方、行事等。
- * 各時代ごとに人々に求められ、形成されてきたもの。短い期間における「流行」ではなく、「長い間」愛されてきたものを文化として定義する。
- * 長期間にわたる大人数の需要と金の流動
- * かなりの人気が出て、すぐなくなってしまうものが流行で、長い間消えることなく継承されているものが文化。
- * 長い間人々(日本の文化だったら日本人)に愛されていて、世界に誇れるものが文化。

これらの定義をみて、「長くとはどれくらいの期間か？」「世界に誇れないものは文化ではないのか？」などと思った方。それを議論していくのが、「言葉を再定義する」探究活動の一つです。そして自分が興味のある分野について他人と議論することは、とても楽しいことです。

V. カナディアン・スタディーズ始動！



トロントとは時差があるため、生徒は少し早起きして7:30集合。現地は1日前の夕方です。外交・経済の分野で日本を代表して活躍される方々のお話から多大な刺激をいただき、生徒からも活発な質問が寄せられました。

2020年より新規海外交流プログラムとして、カナダ・トロントと結ぶカナディアン・スタディーズを始動しました。当初予定していたカナダ渡航・フィールドワークは叶いませんが、オンラインワークショップを実施しています。第1回では在トロント日本総領事から海外で活躍するための資質について、第2回ではトロント日本商工会議所から海外で働くことについてレクチャーをしていただきました。

VI. 在校生の皆さんへ

論文提出

○44期生は1月6日（水）が論文提出日です。

○今回の提出はWord形式のみです。A4標準余白・フォント10.5など様式は授業で配布されたプリントを参照して下さい。また引用箇所・出典の表記などは本校「探究ガイドブック」に記載されたルールに従って下さい。

校内無線LAN

○全教室およびラーニング・コモンズ・体育館に無線LAN（八王子東Wi-Fi）が設置されました。

○令和3年2月からはWi-Fi接続に対応した生徒所有のタブレット端末等（BYOD）が接続可能になる予定です。

○詳細は3学期に配布される利用規程・規則をご覧ください。